

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	西片 公典
2-2	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	関係課	学校教育課、文化財課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	市民		①桜川市人口	人	見込値	37,653	37,269	36,885	36,500	35,897
実績値					37,653					
				見込値						
				実績値						
				見込値						
				実績値						
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	生涯にわたって自ら学び、学びあっている。	①日頃学習活動をしている市民の割合	%	目標値	25.1	27.5	30.0	32.5	35.0	
実績値				26.0						
②公民館・集会施設等の年間利用者数(R4から新規)		人	目標値	94,000.0	95,000.0	113,000.0	138,000.0	150,000.0		
			実績値	43,846.0						
③図書館・室の年間利用者数		人	目標値	30,600.0	31,100.0	60,000.0	80,000.0	100,000.0		
			実績値	9,193.0						
			目標値							
			実績値							
			目標値							
			実績値							
成果指標設定の考え方		「生涯にわたって自ら学び、学びあっている」成果指標は、①「日頃学習活動をしている市民の割合」を市民アンケート結果及び各社会教育施設の利用者数データを採用する。								
成果指標の把握方法と算定式等		○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①日頃学習活動をしている市民の割合は、市民アンケートより求める。②公民館の年間利用者数は、各公民館の利用実績の合計より求める。③図書館・室の年間利用者数は、真壁図書館・岩瀬中央公民館図書室・大和中央公民館図書室の利用者の集計より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	日頃学習活動をしている市民の割合について、令和4年度は目標値25.1%に対し26.0%と0.9%増加した。目標値と比較すると微増だが、岩瀬中央公民館が閉館して学習活動の場が減ったことを考えれば、市民は実際の数値以上に学習活動に取り組んでいる傾向が読み取れる。コロナ禍が続く中で、ただ活動を制限するのではなく、様々な学習活動ができる形で行うようになってきているのではないかと考えられる。 ②公民館の年間利用者数については、94,000人の目標値に対し、43,846人であり、目標値を大幅に下回った。 ③図書館・室の年間利用者数についても、30,600人の目標値に対し、9,193人と大幅に下回った。 目標値を大幅に下回った要因としては、新型コロナウイルスの感染拡大による施設の利用の制限や、岩瀬中央公民館の閉館などが大きく影響している。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①日頃学習活動をしている市民の割合について、目標値25.1%に対して0.9ポイント上回った。要因として、コロナ禍が続く中で、ただ活動を制限するのではなく、様々な学習活動ができる形で行うようになってきているのではないかと考えられる。 ②公民館の年間利用者数については、94,000人の目標値に対し、43,846人であり、目標値を大幅に下回った。 ③図書館・室の年間利用者数についても、30,600人の目標値に対し、9,193人と大幅に下回った。 目標値を大幅に下回った要因としては、新型コロナウイルスの感染拡大による施設の利用の制限や、岩瀬中央公民館の閉館などが大きく影響している。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
生涯学習・芸術文化活動の推進事業において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。 ・電子図書館システム運用事業・・・コロナ禍の中で様々な行動が制限される中、24時間提供可能な非来館型図書館として、高い利用率を維持している。 ・桜川市市民文化祭・・・実行委員会を中心とした市民全ての方が参加資格を有し、日頃の生涯学習活動・文化振興活動の成果を発表する場として、コロナ禍においても、感染対策を徹底した上で、多くの催事を開催した。 ・生涯学習課動画共有サイト運用事業・・・成果としてはまだ小さいが、撮影機材・配信機材を活用したコンテンツ作成及び各種講座参加のためのポータルサイトの運用により、これまでに無かった学びの場を提供していくことで、今後の成果向上が大きく期待できる。	各種催事参加者や社会教育施設等の利用者が高齢化しており、これまで生涯学習分野で参加が少なかった幼児、小・中・高校生や現役世代のニーズに応えられる事業展開が課題となっている。 子どもの読書推進計画策定やブックスタート事業、公民館読み聞かせ事業については、令和6年開館予定の複合施設と併せて飛躍が期待できる重要な事業であり、引き続き注力していく。 各施設の管理運営に関しては、複合施設の開館にあわせて大和中央公民館改修のための一時閉館を予定しており、改修後にはより発展した定期講座を展開できるよう、複合施設で展開する講座を横展開することを検討する。